

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	国際結婚と日本社会
Author(s)	キャロリン ホダー,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1996 : 61 - 70
Issue Date	1997-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039398
Right	
Relation	



国際結婚と日本社会

キロリン・ホター

はじめに

年々日本では国際結婚する人の数が増えている。昭和40年には(1965)国際結婚(日本人と外国人の間の結婚)の数は、4156組で平成6年には(1994)25182組に増えたのである。ほとんどの国際結婚は日本人の男性と外国人の女性である。例えば平成6年には25182組の国際結婚の中、19216組は日本人の男性と外国人の女性との結婚である。(平成6年の統計は一番新しい)

言うまでもなく国際結婚の数が増えるにつれて永住する外国人の人数も増える。つまりこの研究の目的は日本人と結婚している外国人の日本での生活を調べることである。まず日本人と結婚する前の日本での生活と日本人と結婚した後の日本での生活がどうなるかに変わっている。たか、特にその外国人に対して日本人との結婚とかが決まった後、日本人の態度と考え方が変わっている。たか、次に在日期間が長く、日本人と結婚している外国人が日本にまだ違和感を感じているか、日本社会に溶け込みたいという気持ちや周りに受け入れられているかについて調べ、一方で同僚の日本人と結婚している外国人と同僚の日本人と結婚していない外国人に対する日本人の意見は違ってくるか、もし違ってくるなら、どう違ってくるかを調べてみる。さらに日本人が同僚の日本人と結婚している外国人に対してどういう考えを持っているか、日本社会に入る条件として何が大切かと思われていることについても調べる。

日本にいる外国人の多くは在日期間が短い。法的に独身の外国人の場合、長期在日は難しいと言っている。でもよりの思ふ、帰化する以外の場合でも(帰化をするには日本人の名前に変更しなければならぬ)永住権を持った場合には二十の在日期間が必要であると言われている。外国人の男性は特にこの基準が厳しいと言われる。とにかく外国人が日本社会に受け入れられるにくり理由として早く帰国する外国人が多いことが挙げられると思ふ。また日本人の子供が幼い頃かろうしつけられる「うち」と「と」という概念が関係しているかもしれない。「うち」と「と」というのは、まず家のされいさと外の汚さとが関連して「と」は他人がいる場所、「うち」か「と」として日本人の行動が非常に違ってくる一般に言われる。在日外国人の問題真の一本はどうかした一つの「うち」に入れるかということである。この概念でなぜほとんどの外国人の在日期間が短いかを十分説明できるかどうかは別として、私に関心を持っているのは一般の外国人に比べてれば日本人の配偶者を持つ外国人がどの程度日本社会に入り易くなるかということである。

日本では結婚がまた強く機能しているのどの程度かという日本人の考え方が国際結婚に影響を及ぼしているか、次は外国人が日本人と結婚することによってどのようにならぬか、この研究でできるだけ、このようにならぬことを考えたいと思ふ。

調査の方法

この調査は、テーマに参考にしてできる本が少ないため、国際結婚について、質問を作成し、その後アンケート調査を行った。一つは、20-45歳の年齢集団の中の日本人に配布した。この年齢集団に注目することで行った。一つは、日本人と結婚している外国人に配布した。この外国人が結婚してか、どのようなふうな関係が変化したのかを調べるためで、結婚前に2年以上の在日期間を持つ人に限った。このアンケートに答えた外国人は多くは広島県と大分県に住んでいる。また、今回アンケートを配ったのは英語を母語とする外国人に限った。これは外国人に対してのアンケートが英語で回答する形をとっていることによる結果的にアンケートに答えても、たのはすべて西洋人となり今回は東洋人は含まれていない。

日本人に配布したアンケートの結果

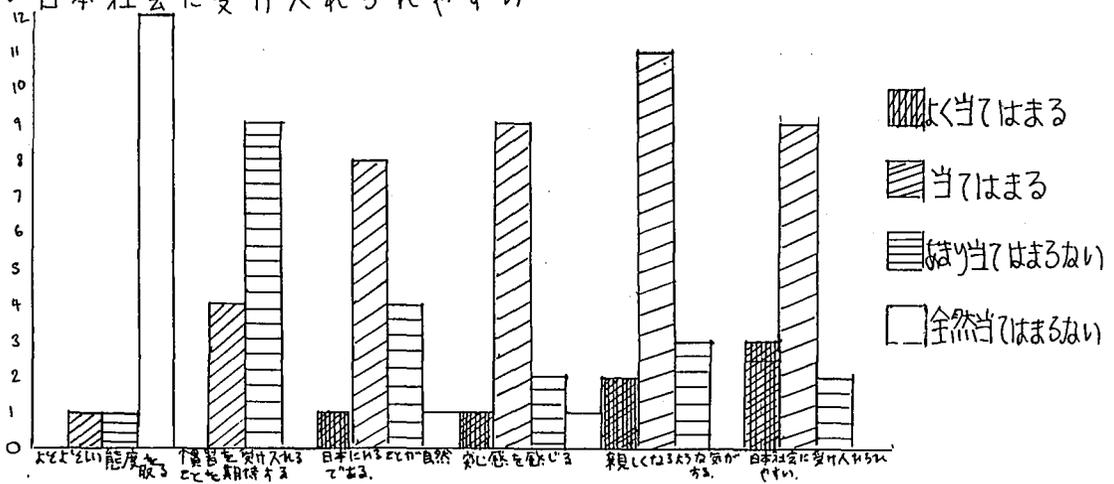
グラフィックとグラフィックは、外国人が日本人と結婚しているかいないかによって、その外国人に対するあなたの態度と考える方に違いが出ると思われ、また、かという質問の答えを表す。この質問を答えた33人の中、19人(58%)は態度と考える方に違いが出ると思われ、14人(42%)は態度と考える方に違いが出ると思われ、14人以上の質問に関してどのような態度と考える方が変わるのかを調べるために以下に示す6つの項目よく当てはまるか、当てはまるか、あまり当てはまるないか、全然当てはまるないの中からそれぞれこの項目一つを選ぶように聞いた。

次の6つが質問した項目である。

(日本人と結婚していない外国人よりも、日本人と結婚している外国人に)

- よそよそしい態度を取る
- 日本社会の慣習を受け入れることを期待する(例:敬語の使用,お歳暮)
- 日本に居ることが自然である
- 安心感を感じる
- 親しくなるような気がする
- 日本社会に受け入れられるやすい

顔見知り程度の場合 グラフィック



(4)

結婚してのなり外国人は日本社会に受け入れられるわけではないが日本人と結婚している外国人は日本社会に受け入れられやすくなるということを示す。

他の国より、日本ではこの傾向が特に強いと考えられるのは結婚という制度が西洋の国より重要に思われて「うち」と「そこ」の違いが激しいため外国人は日本社会に受け入れにくいと思われるかもしれない。

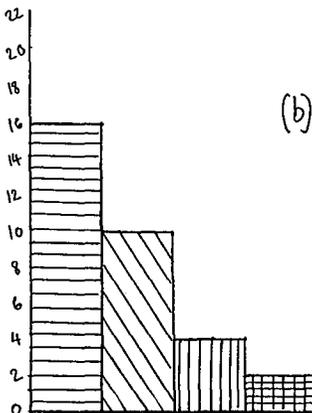
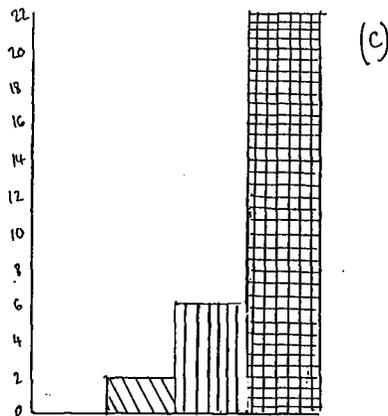
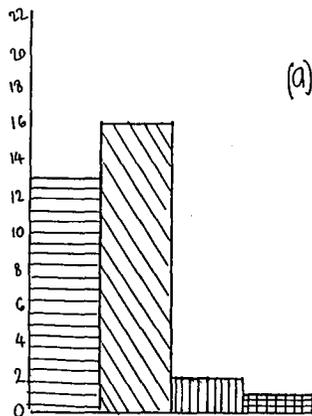
以上に述べたことについては¹⁴「外国人が日本人と結婚しているかいないかによって、その外国人に対するあなたの態度と考え方に違いが出ると思いますか」という質問に¹⁵「違いが出ると思う」と答えた¹⁶「違いが出ると思わない」と答えたが次の質問は全員が答え、同じような傾向が見られる。

次の質問は以下のように聞いた:

「日本人と結婚している外国人は日本人と結婚してのなり外国人よりも-

- (a) ・日本社会の一員として受け入れられやすい。
- (b) ・日本社会に受け込みやすい。
- (c) ・日本社会に対して脅威である。

結果は次のように:



- ▬ 強く思う
- ▨ 少し思う
- ▮ あまり思わない
- ▧ 全然思わない

(a)の結果は、前の質問の通りである。26%はある程度、日本人と結婚している外国人は、日本社会に受け入れられやすいというふうに答えた。これに26%は、日本人と結婚している外国人は日本社会に受け込みやすいというふうに見た。最後に(c)の結果は、日本人と結婚している外国人は一般の日本に在る外国人よりも日本社会に対して脅威であることはいふに答えた。今まで見た結果は、日本人と結婚している外国人と一般の日本に在る外国人の比較である。結果は、ある程度日本人と結婚している外国人よりも日本人と結婚している外国人は日本社会に受け入れられやすい、溶け込みやすい、個人的なレベルに安心感を感じ親しくなるような気がし、日本に在ることが自然などというように見なしたに違わぬだる。しかし日本人と結婚するということは他の条件に比べると日本社会に認められるような順番はどうなるのだろうか。

次のように聞いた: 「外国人が日本に在ることが日本社会に認められるために大切だと思われるものに付けて下さい」

以下の表はこの質問を表す。

条件	シテ付けた人数	川頁番
日本に役に立つような仕事	9	3
日本語の能力	31	1
在日期間	13	2
日本人と交際先	2	5
外国人の国籍	1	6
日本人の配偶者との間に子供がいるかどうか	3	4

ごらんのように日本人と結婚するということの順番に5番になり、日本語の能力は圧倒的に一番大切なことである。これは日本人と結婚することは大切でないわけでないが日本人にとって言葉が通じないと怖く思われるかもしれない。2番目は在日期間である。これは在日期間が長ければ日本の習慣に慣れている、日本が好きであるしとわかるのではないか。以上がこの質問からどういふ結果に分かれたこと分析である。

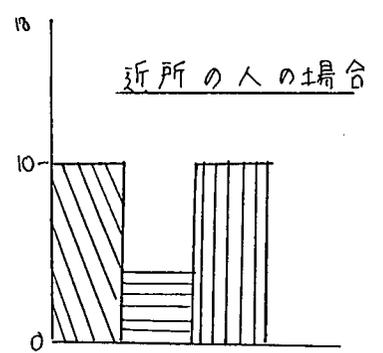
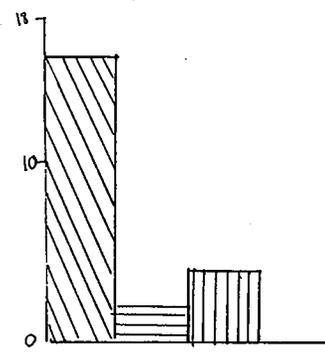
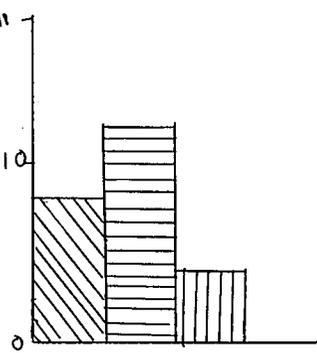
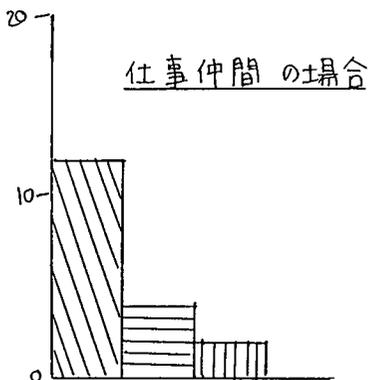
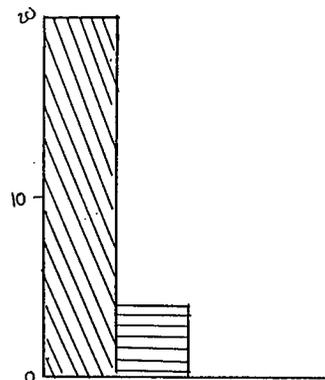
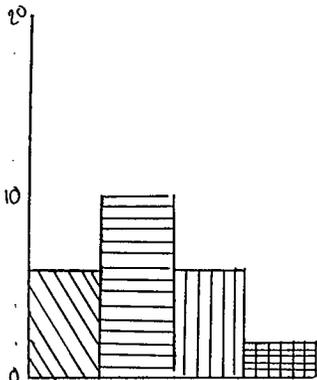
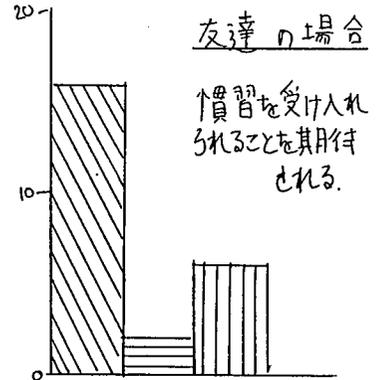
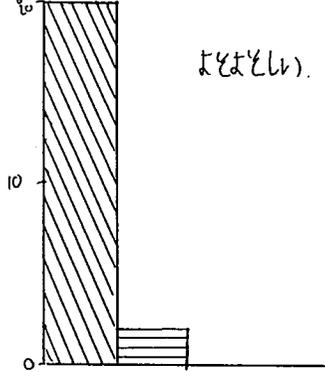
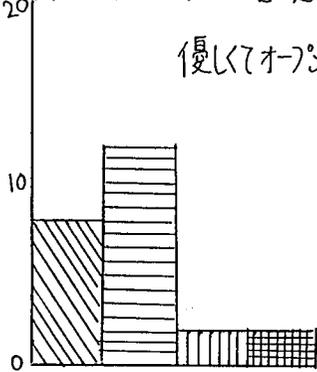
(6)

外国人に配布したアンケートの結果

外国人に配布したアンケートの目的は日本人と結婚してから、どのように日本人の(その)外国人に対して態度が変わったか。三つの場合について聞いてみた。その三つは友達の場合、仕事の仲間、近所の人である。そしてその三つの場合について三つの質問をした。

- 質問は次のように聞いた; 『日本人と結婚することが決まると、どのように日本人の態度が変わったか』
- (a)より優れてオープンになったか
 - (b)よりよそよそしくなったか
 - (c)日本社会の慣習を受け入れられることを期待されるようになったか

以下のように答えた



	よく 当てはまる	当て はまる	少し 当てはまる	全然 当てはまる
日本社会に参加する機会が増えるからである	4	4	12	4
日本人と結婚しているあなたに対して態度が変わったからである	4	4	10	4
日本人は一般の外国人より日本人と結婚している外国人に対してより親しくオープンな態度を取るからである	2	6	6	8

ここでとても面白いと思うのは、 $\frac{1}{2}$ は「日本人は一般の外国人よりも日本人と結婚している外国人に対してより親しくオープンな態度を取るからである」という理由に「全然当てはまるな」と答える一方、 $\frac{1}{2}$ 人は「日本人と結婚しているあなたに対して態度が変わったからである」という理由に「少し当てはまる」と答えているが、態度がどのようなふうに変わったかのたかるうか。ごらんのように「日本社会に参加する機会が増えるからである」という理由に $\frac{1}{2}$ は「少し当てはまる」と答えた。ここで面白いのは社会的な理由とするよりも日本社会に参加する機会が増えたこと(当たり前)を日本社会に受け入れるれ易くなる。この理由としもてゐることである。

最後にこの質問を聞いた「外国人が日本社会に受け入れられるためには何が大切だと思うか」このように答えた:

	一番 大切	二番 大切	三番 大切	四番 大切	五番 大切
日本人と結婚する	0%	14%	43%	29%	14%
在日期間	15%	57%	0%	14%	14%
日本語の能力	71%	16%	13%	0%	0%
国籍による	14%	0%	30%	19%	44%
日本人の自己保者との間子供がいるかどうか	0%	14%	14%	25%	45%

日本人が答えたように日本語の能力は一番大切となり、在日期間は二番目となった。だから両方の意見による日本人との結婚は日本社会に入れられる方法としてはまず日本語の能力が必要で、次に在日期間となり、これらが結婚することより大切に見られるのではなからうか。

結論

このアンケートから日本社会についているのは58%は外国人の意向が感じられる。一方、日本人と結婚して外国人に受け入れられることを期待するよりも、親しくなる日本社会の慣習が受け入れられることの方が顔見知り程度の方がよいと思われる。

日本人に配布したアンケートは「外国人が日本人と結婚していいか」という問いに「いい」と答えたのは29%、26%は「そう思う」と答えた。日本社会の慣習が受け入れられることの方がよいと思われる。また、日本人と結婚して外国人に受け入れられることの方がよいと思われる。日本社会の慣習が受け入れられることの方がよいと思われる。

このアンケートで気をつけておきたいのは20-45歳の集団が、このアンケートで意見を代表しているかどうか分らないこと。また、このアンケートで意見を代表しているかどうか分らない。

外国人の方には86%が日本人と結婚することによって日本社会に受け入れられるという考えがある。また、66%は日本人と結婚して受け入れられるという考えがある。また、66%は日本人と結婚して受け入れられるという考えがある。

このアンケートの結果を合わせると、自分自身というものの個人的なレベルでは日本人と結婚することはあまり大切に思っていない。しかし、社会的なレベルでは日本人と結婚することが日本社会に受け入れられるための条件になるかもしれない。(他の条件は例えば日本語の能力や在日期間などが大切かもしれない。)

国際結婚というものは他の問題にもつながり、外国人はいつまでも「外国人」という名前を付けられたまま日本社会の中にいるのが、国際結婚は私達に意識させ、もう一度考え直すことを促す。

参考文献

1. 澤木 俊郎他 1990 「わかりやすい国際結婚と法」 有斐閣リブレ 25
2. ヤンソン由実子 1981 「国際結婚, 愛が国境を越えるとき」
php研究所
3. 季刊ちんぞり 1984 「季刊ちん」 No2-6 編集委員会
4. Karl Van Wolferen , The Enigma of Japanese Power. London
(1989)
5. Doi Takeo , The Anatomy of Self. Tokyo: Kodansha International
(1988)